

～川（重信川）に名を残した男～

あだち しげのぶ
足立 重信



来迎寺にある足立重信の墓より

安土桃山～江戸前期の治水家、土木開発者。

松山城主 加藤嘉明に仕え、当時、暴れ川で流路が定まっていなかった伊予川（重信川）等の河道改修を指揮監督し、現在とほぼ近い位置に重信川、石手川を造り、松山平野発展に力をつくした。

経 歴

- ^みの美濃の国（岐阜県）に生まれる。
- 1595年 加藤嘉明が正木城城主になり、伊予の国に入る。
- 1596年～ 伊予川（重信川）の改修工事を行う。
- 1600年 伊予川（重信川）の付け替え工事を始める。
- 1602年 松山城の建設工事が始まる。（1627年に完成する）
- 1603年 加藤嘉明と松山に移り住む。
- 1607年 湯山川（石手川）の付け替え工事が終わる
- 1625年 病気のため亡くなる。

1 湯山川(石手川)の付け替え

今からおよそ400年ほど前、加藤嘉明かとうよしあきという武士は豊臣秀吉とよとみひでよしから、伊予の国・正木まさき(後の松前まさき)6万石の殿様に命じられ、秀吉の死後は徳川家康とくがわいえやすに仕え、20万石もの領地りょうちを治める殿様になりました。

しかし、正木城は、あまり大きな城ではなく、近くを流れる伊予川いよがわ(後の重信川しげのぶ)も度々、洪水たびたびを起こして人々を困らせていました。

そこで、嘉明よしあきは正木の城よりももっと立派りっぱな城がほしいと、家来の足立重信あだちしげのぶに相談したところ、重信しげのぶはさっそく良い土地はないか探し始めました。

重信しげのぶは候補地こうほちのうち、勝山かつやま(今の城山)は、松山平野のまん中にあり、条件が一番よいと思われましたが、大きな問題がありました。それは、勝山の近くを流れる湯山川ゆやまがわ(後の石手川いしてがわ)がたびたび洪水こうずいを起こすことでした。この川を何とかしない限り、豊かな城下町じょうかまちができません。

嘉明よしあきは、さっそく重信しげのぶを責任者せきにんしゃにし、湯山川の付け替え工事を始めさせました。

まず、重信しげのぶは石手寺の東(現在の岩ぜき)にある数十メートルにわたる大きな岩を切り崩しくず、流れを南西に変えようとしてしました。余戸うごの地で伊予川(重信川ごうりゅう)に合流させるのです。かたい岩を人の手で切り崩すのですから、工事は思ったようにははかどらず、働いていた人々は、みんな疲れ果てていました。そこで重信は「岩を一升いっしょう(約1.80)切り崩した者には、米を一升あたえる。」と伝え、ついに、岩ぜきの岩を切り崩すことに成功せいこうしました。

次に、水路を取り付ける工事に取りかかりました。しかし、上流せまの狭い谷から一気に水が流れ出てくるため、うまく堤防ていぼうを築くことができないのです。「川の水の勢いを弱める良い方法はないものか・・・。」と何日も何日も考え、重信しげのぶは直角に岩石を組んで、小さい土手をつくる「かまなげ」と呼ばれる方法を工事に取り入れたのです。その後、工事は進み、岩ぜきから湯山川が伊予川(重信川)

と合流する所まで、長い土手を完成させました。また、この土手をさらに丈夫なものにしようと、竹や木を植え、今でもその^{とうじ}当時に植えられた木々が残っています。



現在の岩堰

2 まつやまじょう けんせつこうじ 松山城の建設工事

湯山川の付け替え工事が無事終わると、嘉明は重信に城づくりを命じました。しかし、城づくりで重信に待っていた大問題は、石垣作りでした。それには80万個もの大きな石を用意し、それを山の上まで運び上げなければなりません。

重信は、どこの石をどのように運ぶとよいか、その方法をいろいろ考えました。

重信は、何千という農民たちの力を借りて、作業を始めました。しかし、一口で石を運ぶと言っても、細い山道を通して大きな石を山の上まで運び上げるのですから、とても大変な作業でした。大きな石は、坂道にしいた丸太の上を転がし、たくさんの人の手で押し上げられました。しかし、何日運び上げても石垣はいつこうに高くなり、農民たちからは、疲れとともに、米作りができないという

大きな焦りが見え始めました。

ある日、大きな石が下にいた農民たちをなぎたおすという事故がおこり、工事を中止する危機に直面しましたが、農民の誰かが「これはわたらの・・・わたらの村のためじゃ。」「安心して米作りのできる村にするためなんじゃ。」と叫び、農民たちは、再び作業を始めました。それからというもの、農民たちのなわを引く声が一段と大きくなりました。その中でも、のどをからして、ひときわ大きな声を出していたのは重信しげのぶでした。山の上に少しずつ少しずつ積み上げられていく大きな石の上に立ち、自ら指揮をとる重信しげのぶの姿すがたに多くの農民が励まされました。重信と農民たちのかけ声が、休むことなく勝山はげに響きわたってひびいました。

このように、重信しげのぶは松山城まつやまじょうの建設けんせつに力を尽くしましたが、その完成かんせいを目の前なにして亡くなってしまうしました。



来迎寺にある
足立重信の墓

3 川に名を残す

城かんせいの完成をひたすら願い世を去った重信しげのぶは、松山城まつやまじょうや松山の町なみが見わたせる来迎寺らいごうじに手厚く葬ほうむられました。

重信しげのぶの功績こうせきをたたえ、伊予川いよがわは後に「重信川しげのぶかわ」と呼ばれるようになり、日本の河川では珍めずらしい、人名が付いた河川じんめいとなりました。

あだちしげのぶ
足立重信は、まさに、豊かな「城下町松山」を築いた人なので
す。



来迎寺から見える松山城

